

スギ材の高温セット処理後の天然乾燥

林業試験場

研究のねらい

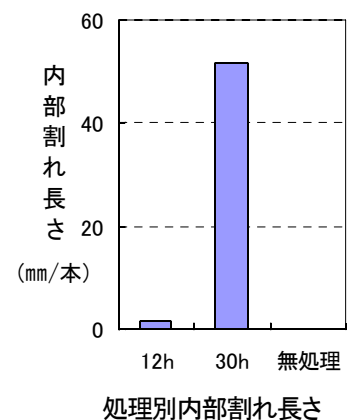
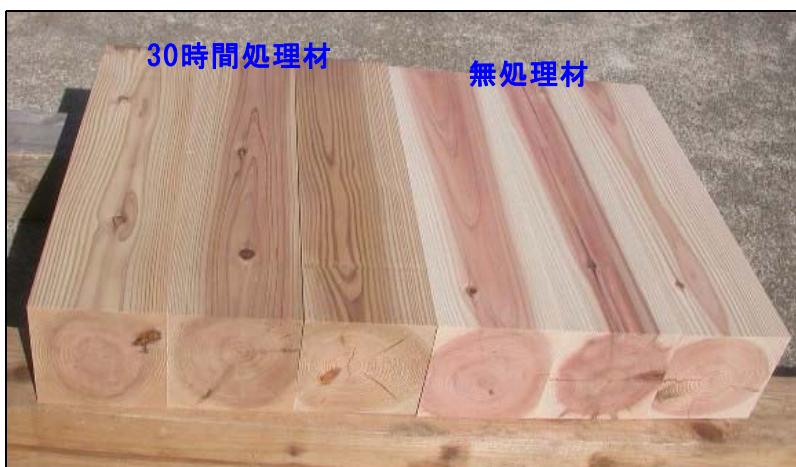
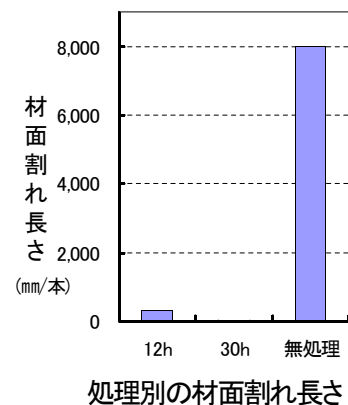
スギ柱材について、近年、材面割れの少ない高温乾燥法が実用化されてきていますが、材色の変化や、内部割れ、材質の低下などの問題点も指摘されています。そこで、高温乾燥の高温セットとよばれる最初の工程だけ行って、その後天然乾燥を行う乾燥法について検討しました。

研究の成果

スギ心持ち柱材(130*130*3000mm)を12時間、30時間、の高温セット処理材と、無処理材を倉庫内で6ヶ月間天然乾燥をおこなった結果、平均で含水率16.4%となりました。また、処理材については無処理材に比べ材表面の割れが著しく少なかった反面、30h処理材では多くの材に内部割れが発生しました。材の変色はいずれの処理材でも見られましたが、処理時間の短い12時間処理材では比較的変色が少ない仕上がりとなりました。

成果の活用面・留意点

1. 乾燥前の含水率によって高温セットに必要な処理時間は変わってくることに注意が必要です。
2. 高温セット後は表面に圧縮応力が働き、材面割れの伸長の恐れがないため、風・太陽光（ソーラー乾燥）などを積極的に利用することで、より効率的な乾燥が行えます。



(問い合わせ先：0739-47-2468)